

市内花の名所

観音寺のサクラ

匠瑛探訪

— 47 —

春4月、サクラの季節となりました。市内での見所は黄門桜（飯高地区）、天神山公園と田町池端、東栄寺境内（いずれも中央地区）などがあげられます。

これから5月にかけて、境内に咲き誇る花を眺めながらの「花の寺」巡りも楽しみみの一つかもしれません。

平和地区平木の観音寺では、10数年前に先代住職が植えた河津サクラ20本余りが見事に育ち、2月から3月の花見時には訪れる人もあったと聞きました。

観音寺は寺の名が示すよう



観音寺境内にある河津サクラ

に、2間四面の小堂に本尊の十一面観音が祭られています。かつて訪ねた時と比べ、境内墓地の改修が進み新しい門柱が建てられるなどの変化が見られます。お堂は1690年（元禄3年）に造られました。が、他の記録や境内の墓石などから寺ができたのはそれより古く、1649年（慶安2年）以前にさかのぼるとみられます。本尊もおそらく2代目で、このころには寺周辺の開発も進み檀家の総力を集め祭られたのでしょうか。

境内入り口の1788年（天明8年）に建てられた石造物から、この寺が

「新四国八十八か所」の第48番札所だったことが知られます。これは3年前の1785年に野中・長禪寺（旭市）の住職が、下総4郡（海上・香取・匠瑛・山武）を四国になぞらえ始めた遍路と結びつきま

す。
4月13日に結願（けちがん）する福善寺（中央地区）などの「東総お大師まいり」・遍路（へんろ）は、幕末に登戸（共興地区）の渡辺権右衛門によって始められたとされますので、その後には再編されたのでしょうか。

1835年（天保6年）の「西国供養塔」は平木村の仲才、蓮沼、初内、山集落や登戸、荻野村の石毛、宇井、鶴殿、川口、椎名、滝田、戸村増田、渡辺姓の人たちによって建てられました。

観音寺には明治前期に間口7間・奥行4間の建物があり、これを教場に使用し平和小学校の前身がスタートしました。後に新校舎が現在地に完成したため明治30年以降取り壊され、本堂だけが残ったのでしよう。

市内には「花の寺」として飯高寺のポタンとアジサイ、飯高・妙福寺のフジ、木積・圓實寺（豊栄地区）のツツジなどが知られています。観音寺の河津サクラを育てた苦労話も耳にしました。来春からこのサクラも「花の寺」に仲間入りすることでしょう。